

## 労働者の歯科口腔保健に着目した生活習慣病予防のための保健指導プログラムの開発



【中野キャンパス】 ヒューマンケア学部 看護学科 准教授

猪股 久美 Inomata Kumi

URL : [帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)

キーワード : 産業保健、産業看護、労働者、歯科口腔保健、生活習慣病



### 研究の概要

SDGs 目標 3 : すべての人に健康と福祉を

口腔内の健康と全身の健康状態の関連性は広く知られるようになり、看護においても、周術期における誤嚥性肺炎の予防、老年看護における嚥下力や咀嚼力の維持に対して、支援がおこなわれている。

一方で、青年期・成人期は、比較的口腔内の問題が顕在化されない年代であることもあり、着目されない傾向がある。また、歯周病やう歯等の問題は、生活習慣病との関連が大きいことについて、労働者が意識していないという課題がある。

青年期・成人期の人々に対して、継続的にかかわることが可能であるのが産業看護職であるため、特に、産業保健の分野で問題となる生活習慣病予防の保健指導で、歯科口腔保健についての指導も、おこなえるようになったらよいのではないかと考えた。

産業看護職が活用できるような、生活習慣病に関する保健指導において、歯科口腔保健の問題を扱うためのガイドの作成を目指している。

### 実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

作成しているガイドは、産業看護職がおこなう生活習慣病保健指導の中に、無理なく歯科口腔保健の視点を取り入れるためのポイントとして活用していただくことを目指している。今後は、実装可能性の検証を検討しており、そのためにもガイドの試作へのご意見をいただき、よりよいガイドの作成にご協力いただきたい。

### 知的財産・論文・学術発表など（詳細は右上 QR コードの教員紹介からご確認ください）

#### 【科研費】

- ・「労働者の歯科口腔保健に着目した生活習慣病予防のための保健指導プログラムの開発」

#### 【学会発表】

- ・「労働者の生活習慣病対策としての歯科口腔保健指導実施の阻害要因」
- ・「Awareness of the Relationship Between Oral and Lifestyle-Related Diseases Among Young Workers」

# 看護師のわざ



【中野キャンパス】ヒューマンケア学部 看護学科 教授

河合 桃代 Kawai Momoyo

URL : [帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)

キーワード : 看護師・わざ・看護技術・熟達・エキスパート



## 研究の概要

SDGs 目標 3 : すべての人に健康と福祉を

SDGs 目標 4 : 質の高い教育をみんなに

看護実践における看護師のわざについて、手術看護、嚥下障害を伴う方への食事介助、胃内視鏡検査を受ける患者や熱傷患者への看護実践などを焦点にあてて研究した。手術看護や食事介助では、看護実践場面をビデオカメラで撮影し、後で場面を当該看護師と視聴しながら振り返り、場面を思い起こしながら研究者と語り合うことで言語化を促す方法を用いた。胃内視鏡検査や熱傷では、研究者自身が体験したことを研究者の視点で分析する一人称研究の方法を用いたことも、オリジナリティがあった。急性期領域における専門看護師やクリティカルケア領域における認定看護師という熟練者に焦点を当て、コンピテンシーについて研究を実施した(共同研究)。現在は、手術看護認定看護師のコンピテンシーに焦点を当てて研究中である。

看護師のわざとして共通していたことは、「待つ」ということも選択肢の一つにあることであった。さらに、看護師は、常に予防に重点を置いたり、患者の機能を補完しながらかかわっていたり、気持ちよさをもたらすケアをほどこすことで苦痛を緩和するケアをおこなっていた。

## 今まで～現在、注目している看護のわざ



手術看護・周術期看護



クリティカルケア看護



嚥下障害を伴う患者への食事介助

## 実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

看護実践における看護師のわざは、個人の経験のみにとどめるのではなく、看護技術として知識として形式化されれば、伝承や教育もでき、ひいては、看護の質の向上につながる研究である。看護技術教育、継続教育、わざの伝承、看護技術の習得などに役立つことが期待できる。

知的財産・論文・学術発表など(詳細は右上 QR コードの教員紹介からご確認ください)

### 【学会発表】

- ・「嚥下障害者への食事介助における看護師のわざの研究—身体を介した相互作用に焦点をあてて—」
- ・「急性期領域における専門看護師のコンピテンシーを形成する要素と構造」

# 看護実践能力の向上に向けた技術習得のモデル化と教育プログラムの構築



【中野キャンパス】ヒューマンケア学部 看護学科 教授

河合 桃代 Kawai Momoyo

URL : [帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)

キーワード : 技術習得・看護実践能力・技術教育・ワークショップ・追跡調査



## 研究の概要

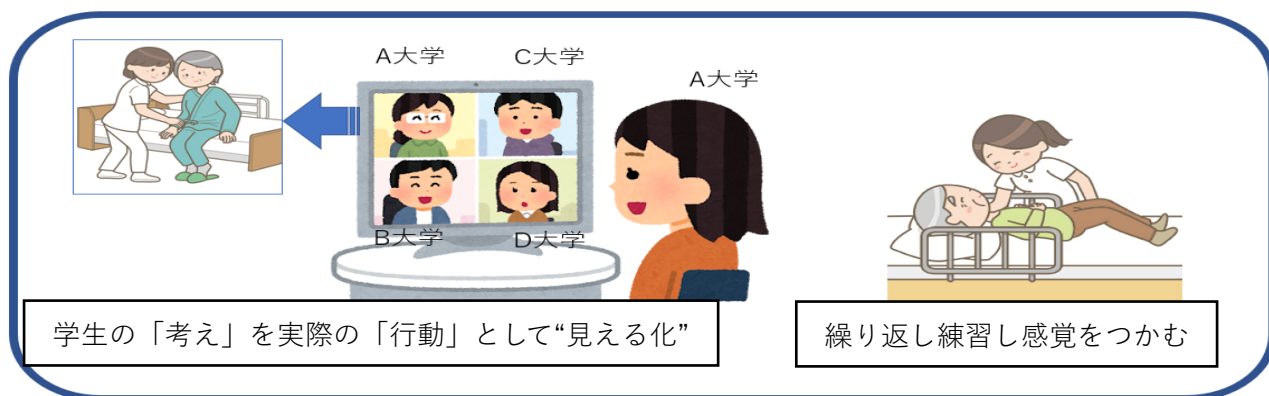
SDGs 目標 3: すべての人に健康と福祉を

SDGs 目標 4: 質の高い教育をみんなに

看護技術を授業で学び始める看護系大学2年生を対象に、新人看護師となるまでの4年間を追跡する縦断調査をおこなった。看護技術を習得するための機会としてワークショップを開催し、繰り返し看護技術を練習することで、どのように習得していくのかを研究とした。この研究により看護技術の教育の在り方を考え、教育モデルを考案できる。

教育DXが進む中、学生が考えた看護を、遠隔にいる看護師役(アバター)がその場で実演した。結果として、学生の頭の中の「考え」を、実際の「行動」として“見える化”することで、実習前にじっくり考える時間が生まれた。看護技術の練習は、対面だけでなくオンラインでも可能であることが見えてきた。具体的には、観察力やコミュニケーション力を、繰り返し考え、試すことで、学生の看護の選択肢は着実に広がることわかっている。

## 繰り返すことで 技術を身につけていく



## 実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

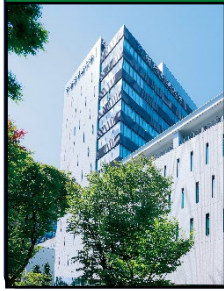
本研究により、看護基礎教育での看護技術教育についての基盤研究になりえることや、継続教育において基礎教育とのつながりを示すことにもなりえる。看護師のモチベーションの一つに、看護技術が捉えられることもあり、看護技術教育は看護師の専門性の一つであることから、基礎教育での看護技術教育の在り方を考える研究である。看護師になったときに看護技術の一つでも習得していれば、どの患者に対しても自信をもってケアを提供できることが期待できる。

## 知的財産・論文・学術発表など(詳細は右上QRコードの教員紹介からご確認ください)

### 【学会発表】

- ・「看護学生の観察技術教育におけるアバターの有用性 —大学横断任意参加型ワークショップを通して—」
- ・「看護学生の「動きの援助」技術習得過程 —大学横断任意参加型の看護技術ワークショップを通して—」
- ・「熱布バックケアを体感する反復練習により編み出された看護学生の工夫」

# 小児がん経験者の復学後教育機関で生じる問題の明確化と支援プログラムの開発



【中野キャンパス】 ヒューマンケア学部 看護学科 教授

下山 京子 Shimoyama Kyouko

URL : [帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)

キーワード : 小児がん経験者・復学・連携・支援プログラム



## 研究の概要

SDGs 目標 3: すべての人に健康と福祉を  
SDGs 目標 4: 質の高い教育をみんなに

この研究は、小児がん経験者が最も困難として捉えていた復学後の問題に焦点をあてる。現状での教育機関で生じている小児がん経験者を取り巻く問題を明らかにし、小児がん経験者が復学後、生活しやすい環境を整えることが可能になる教育機関への支援プログラムの開発をおこなう。多くの実態を明らかにするために、教育機関の教員・小児がん経験者・その母親に復学後の問題状況についてアンケート調査を実施し、その後インタビュー調査を実施し問題状況を明確化する。それぞれの研究結果を基に、効果的な支援プログラムの開発及び評価をおこなう。

2025 年度に、小学校・中学校・高校教員および養護教員 516 名を対象に全国 Web 調査を実施した。その結果、多くの教員が、小児がん経験者を含む復学する子どもたちの学校生活に配慮し、子どもに対してより良い環境を整えようとしていた。一方で、教員が得られる情報は、保護者や復学した子ども本人からの疾患に関する概要、今後の外来受診予定、体育の授業への参加可否などに限られていた。教員からは、疾患情報、学校における配慮内容、退院後の児童生徒の状況などについて、医師とダイレクトな情報交換をおこないたいという要望が多く示された。また、教員は、個人情報制限から、保護者や子どもに対して、今までの治療や今後の疾患の治療等どこまで教員として介入して良いのか、少ない情報の中でどのような関わりを自分が提供できるのか戸惑う様子が見られた。

復学する子どもにとって、学校生活は生活の中心になる。また、病気の治療を経た子どもは、復学後の生活の中で自分自身と向き合いながら、新たな日常を築いていく必要がある。その支えとなるのは、身近にいる教員や友人である。医療者は、治療が終了した子どものその後の生活を支える役割を持つと考える。教員が望むように、医療者とのより良い連携が実現すれば、子どもの復学後の生活の質向上につながると考える。

## 実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

小児がん治療後の課題は、大変大きく、医療者、教育者、家族が連携し、成長・発達を見守っていくことが重要になる。子どもを取り巻く環境に対して、他職者・家族が連携することにより、多くの課題が軽減されるのではないかと考える。今回の研究では、小児がん経験者を受け入れる教育界ではどのような問題が出現しているのか、教育者の困難感を明確化することを目的としている。

## 知的財産・論文・学術発表など（詳細は右上 QR コードの教員紹介からご確認ください）

### 【論文】

- ・「Problems in the Various Stages of Childhood Cancer Survivors' Lives and their Self-Care Processes」
- ・「Rethinking Support for Pediatric Cancer Survivors Provided by Pediatric Specialty Hospital Outpatient Nurse」
- ・「Problems Faced by Mothers of whose Children have Survived Cancer that Appeared During the Life Stages of the Children and the Process and Guidance for Self-Care」

# 新卒看護師を指導する実地指導者へのサポートプログラムの開発



【千葉キャンパス】健康医療スポーツ学部 看護学科 講師

田辺 幸子 Tanabe Sachiko

URL : [帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)

キーワード : 実地指導者・困難感・尺度開発・バーンアウト



## 研究の概要

SDGs 目標 8：働きがいも 経済成長も

新卒看護師を教育する実地指導者は、学生から看護師への移行期における継続教育を担う重要な存在であり、新卒看護師の職業的発達や職場適応に大きな影響を与える役割を果たしている。一方で、実地指導者は新卒看護師の教育に加え、リーダー業務や医療チームの一員としての役割など、多様な業務を同時に担っている。このような状況の中で、多様化する価値観や学習背景をもつ新卒看護師を指導することは、実地指導者にとって大きな負担となり、指導上の困難感を抱くことが少なくないと考えられる。

本研究は、質的帰納的研究「新卒看護師を指導する実地指導者の困難感」で得られた結果を基盤として、作成した「実地指導者の困難感尺度」を用いて、実地指導者の困難感がバーンアウトに及ぼす影響について検討をおこなう。具体的には、困難感を構成する因子とバーンアウトとの関連性を明らかにする因果モデルを構築し、共分散構造分析等の統計的手法を用いてその妥当性を検証する予定である。さらに、検証された因果モデルをもとに、実地指導者の困難感を軽減し、バーンアウトを予防するための支援の在り方について検討する。具体的には、困難感の高い側面に応じたサポートの内容を整理し、実地指導者を対象とした支援プログラムの構成要素を提示することを目指す。本研究を通して、実地指導者が継続的に役割を果たすための教育的・組織的支援の基盤となる知見を提供することを目的とする。

新卒看護師を指導する実地指導者の困難感尺度信頼性・妥当性の検証  
(3因子20項目の尺度完成)



実地指導者の困難感とバーンアウトの因果モデルの検証  
NIOSHの職業性ストレスモデルを参考に概念枠組みを作成し、実施する。



実地指導者に対する支援プログラムの内容の検討

## 実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

新卒看護師に関する研究は積み重ねられており、支援も充実してきている。しかし、指導する立場の実地指導者に対する先行研究は少なく、実地指導者への支援については、充実していないのではないかと考える。新卒看護師の指導上の困難感を乗り越えることで、実地指導者の成長につながると考える。実地指導者としての役割に自信を持ち、新卒看護師と対峙できることで、新卒看護師の指導も充実し、新卒看護師の成長にもつながると考える。

知的財産・論文・学術発表など（詳細は右上 QR コードの教員紹介からご確認ください）

### 【論文】

- ・「Difficulties in Instructing Novice Nurses as Perceived by Preceptors」

### 【学会発表】

- ・「新卒看護師を指導する実地指導者の困難感を評価する尺度の開発」

## 高齢患者への薬物療法に関する一般病院看護師の実践力と知識力を向上させるための教育プログラムの開発



【池袋キャンパス】共創学部 デジタル共創学科 准教授

照屋 健作 Teruya Kensaku

URL : [帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)

キーワード : 高齢者看護・ポリファーマシー・看護職のための教育プログラム・有害事象に対するアセスメント



### 研究の概要

SDGs 目標 3 : すべての人に健康と福祉を

本研究は、高齢患者の薬物療法における看護師の実践力と知識力の向上を目指す教育プログラムの開発に焦点を当てています。その中で、高齢者の加齢に伴う薬物動態の変化や多剤服用によるリスク増加を考慮し、看護師が薬剤の反応や有害事象を正確に評価し、適切な介入をおこなうための能力を強化します。また、ポリファーマシーに関連する看護介入の重要性を考慮し、急性期病院や高齢者施設、在宅ケアにおける看護師の役割強化を目指しています。

本研究での教育プログラムでは、看護師が高齢患者の薬物療法において包括的なアセスメントと実践をおこなえるようになっていきます。そして、臨床での具体的な課題に基づき、事例研究や概念分析を取り入れた実践的な学びを提供することで、質の高いケアの提供を可能になると考えています。また、医師や薬剤師との協働を促進し、患者の安全と健康管理への総合的アプローチを推進することも目的です。

- ・ **オリジナリティ**: 看護師主導の薬物療法教育プログラムの開発による多職種間協働の促進と看護師独自の包括的アセスメントの強化
- ・ **新規性**: 高齢者の薬物療法に特化した看護教育プログラムは珍しく、看護師の専門性と実践力の向上に寄与

### 実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

- ・ **臨床実践への直接的応用**: 本教育プログラムは、看護師が働く臨床現場での具体的な課題に基づいて開発され、高齢患者の薬物療法に関する実践力と深い理解を提供
- ・ **医療品質と協働の強化**: 効果的な多職種協働を促進し、薬物療法における患者安全と医療品質の向上に寄与
- ・ **社会的貢献と産学連携**: 高齢化社会における医療コスト削減と医療人材の育成に貢献し、大学と医療機関・自治体間の協力関係を強化する機会を提供

これにより、以下のニーズが見込まれます。

- ・ **医療品質の向上**: 効果的な薬物療法による患者ケアの質の向上、病院評価と地域医療の質の向上
- ・ **医療コストの削減**: 精度の高い薬物療法による不必要な入院や薬剤関連有害事象の減少、医療コストの削減
- ・ **医療従事者間の協働強化**: 看護師専門性の向上による医師、薬剤師との効果的協働、チーム医療の効率と効果の向上

### 知的財産・論文・学術発表など（詳細は右上 QR コードの教員紹介からご確認ください）

#### 【科研費】

- ・ (基盤研究(C)) 「急性期病院における看護師のエイジング・センシティブ・ケア向上教育プログラムの開発」
- ・ (基盤研究(C)) 「高齢者ポリファーマシーに関連した看護教育プログラムの検討」

#### 【示説発表】

- ・ 「急性期病院における高齢者看護アセスメント教育プログラムの検討 ～薬剤に関する自己学習 DVD の開発～」

# 当事者の主観的 QOL と安楽死に関する研究



【千葉キャンパス】健康医療スポーツ学部 看護学科 教授

吉澤 千登勢 Yoshizawa Chitose

URL : [帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)

キーワード : 主観的 QOL ・ 死を選ぶ自己決定権 ・ 医師/看護職 ・ 積極的安楽死



## 研究の概要

SDGs 目標 3 : すべての人に健康と福祉を

### [研究目的]

本研究の目的は、臨床現場の医師や看護職が「主観的 QOL」・「死を選ぶ自己決定権」・「積極的安楽死」についていかなる視座をもち、臨床現場でどのような倫理実践(意思決定支援)をしているかについて明らかにすることである。

### [研究背景]

「安楽死」は、ギリシャ語で「良い死、苦しみのない安らかな死」を意味するが、「積極的安楽死」は人工的に人を死に至らしめる行為に他ならない。「積極的安楽死」の倫理的正当性は、時代や民族・文化などによりその価値判断が異なるであろうが、昨今、世界では「安楽死法(自殺幫助)」を容認する国が増えている。日本でも、2019年に多系統萎縮症患者が「安楽死法」のあるスイスで安楽死を実行し、その患者が死を遂げるまでのプロセスがNHKの番組で放映された。刻下、日本は超高齢社会による多死社会が眼前にあり、「積極的安楽死法」に関する議論は、もはや避けては通れない現況にある。

### <引用文献>

- 1) 立山龍彦: 自己決定と死ぬ権利
- 2) 児玉真美: 死の自己決定権のゆくえ～尊厳死・「無益な治療」論・臓器移植
- 3) 宮下洋一: 安楽死を遂げた日本人
- 4) 藤和彦: 「多死社会」の到来は日本に何をもたらすか

## 実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

諸外国では、医師による自殺幫助を「尊厳死」とみなし、「積極的安楽死」と「尊厳死」を区別していない国もあるが、いずれにしても、社会の中で議論を重ね、法整備に至っている。日本でも、これまでに「東海大学安楽死事件」や「射水市民病院(人工呼吸器取り外し死亡事件)」、現在裁判中の「京都 ALS 患者: 医師による囑託殺人事件」などが発生している。多死社会を迎える今だからこそ、社会的議論を深める必要性のある「死を選ぶ自己決定権」の倫理的正当性について、現場の医師や看護職の「現状認識」、「倫理実践(意思決定支援)」を明らかにし、今後、「積極的安楽死」を検討する際の基礎資料に、また医療職の「倫理実践」の質的向上の一助にしていきたい。これにより、医療職の院内倫理研修や意思決定支援等に活用することができる。

## 知的財産・論文・学術発表など(詳細は右上 QR コードの教員紹介からご確認ください)

【科研費】 主観的 QOL と死を選ぶ自己決定権の倫理的正当性-医師/看護職の積極的安楽死への視座

【論文】 ・ 多職種(医師, 看護師, 理学・作業療法士, 社会福祉士) 倫理連携研修プログラムの開発, 地域ケアリング

・ 多職種(医師, 看護師, 理学・作業療法士, 社会福祉士) 倫理連携研修プログラムの開発

～資格のための養成カリキュラムに焦点をあてて